

第14回

小学生夏休み読書感想文コンクール最優秀賞

4年生の部 稲沢市 櫛野紅羽さん「びゅんびゅんごまがまわったら」



たんぽぽのくきでかんむりを作ってママにプレゼントしたときとっても喜んでくれたことが心に残っています。そんなわたしが手にとったのは「びゅんびゅんごまがまわったら」という本です。学校にある自然に囲まれた遊び場。昔は自由に遊びまわれ、人気のところでしたが、けがをしてしまった子がきっかけでかぎをかけられ今は遊べません。またみんなで遊び場で遊ぶことができるように、校長先生に出された課題をクリアして子どもたちが努力していく話です。

校長先生は自分の性格をあまのじゃくと言っていました。調べてみると「わざとさからった行動をする人」とありました。かぎを開けてもらうために子どもたちに出した課題は、びゅんびゅんごまを一つまわすこと。でも、一つ二つ三つまわしてもかぎを開けてくれません。そして、四つ。あまのじゃくっていやな性格なんだと、わたしはいやな気持ちになってしまいました。でも、読みすすめていくと、こまを四つまわすために、練習する子やそれをおうえんする子、かきの実でネックレスを作る子など、みんなでがんばるだけではなくて、自然のもので楽しく遊ぶようになりました。きっと校長先生はこうなることを願っていたのかもしれない。そんなことを思っていると、さっきまでのいやな気持ちはどこかへいってしまいました。

成長した子どもたちを見た校長先生はやさしいえがおになり、しょくいんかいぎで決まってもないのに、かぎを開けてくれました。やっぱりすてきな校長先生で安心しました。校長先生はやくそくを守るだけではなくて、子どもたちがとくいな草ぶえをいっしょうけんめいれんしゅうしてくれました。

この本を読んで、好きな工作でママやパパを喜ばせることよりも、もっとわたしがいろいろなことをがんばって、成長することが一番大切だと気がつきました。

第 14 回

小学生夏休み読書感想文コンクール最優秀賞

5年生の部 弥富市 伊藤梨乃さん 「犬と私の10の約束」



夏休みに出た学校の宿題で、読書感想文があった。なんの本にしようか考えていると、昔、おばあちゃんに図書館で借りてきてもらった本のことを思い出した。一度読んだことがあったが、もう一度、読み返してみることにした。

主人公は、水泳が苦手だったのに、犬のバニラのおかげで、25m泳げるようになった。ほかに、落ち込んでいるときや、イライラしているときもそうだ。やはり、犬はすごいと思う。でも犬は、人間の言葉が話せない。10の約束の中にも、「5. 私にたくさん話しかけてください。人の言葉は話せないけどわかっています。」というのがある。わたしは、この5番が一番好きだ。犬に私たちの言葉が聞こえていると思うと、少しうれしくなる。

主人公は、バニラのことを、大切にしていた。バニラが死んでしまったとき、姫リングというものをうめて、一年に一度ちゃんと姫リングを一つ食べている。そして、バニラが死んでしまったとき、約束の「私が死ぬときお願いします。そばにいてください。そしてどうかおぼえていてください。私があなを愛していたことを。」ということを守った。

バニラがおほねになる日、主人公はバニラが天国に行くまで、ずっとそばにいてあげていた。私も、主人公と同じ立場だったら、同じ行動をしたいと思う。

これまでは、死んでしまうなんていやだ。早く死んでしまっは、幸せじゃないと思っていた。でも、この本を読んで思った。犬は大切にされていることをわかっている。頭をなでたり、「いい子だね。」というほんの少しの行動で、犬は幸せだ。

私は、この本をよんで、命の大切さについて学んだ。これから、私が犬を飼うかはわからない。でももし飼ったら、犬が幸せになるように、がんばって育てたい。

第14回

小学生夏休み読書感想文コンクール最優秀賞

6年生の部 稲沢市 帆苅悠花さん 「十五少年漂流記」



先日、洞くつに入ったサッカーチームの少年とコーチが出られなくなってしまったという事件がありました。この事件は、以前読んだことがある「十五少年漂流記」とよく似ていたので、もう一度読んでみることにしました。

私は、なぜ十五人の少年が無事に故郷へ帰ることができたのか、疑問に思いました。少年たちが着いたところは、ニュージーランドから遠く離れた、誰一人いない小さな島だったからです。私だったら、誰かの助けを長い間待っていたと思います。船を作り直すことも、狩りや漁をすることも得意ではないからです。けれど、少年たちはどれも簡単にやっていて、とても尊敬しました。そして、少年たちが無事に故郷へ帰ることができたのは、協力しあったり、助け合ったりすることができたからだと思いました。

本には、リーダーシップを発揮してみんなをまとめる少年や狩りや漁をする少年、食事をつくる少年などがいました。私は、みんなが得意なことを生かし、互いに助け合って生活している姿に強く胸を打たれました。私は学校で料理クラブに入っているので、料理でみんなの役に立てる自信があります。なので、もし私が少年たちと同じ立場にいたら、料理上手なモコといっしょに料理をつくり、他の少年たちの疲れを取って、笑顔にさせていたと思います。

十五人の少年から、みんなで協力することの大切さを学ぶことができました。少年たちが無事に故郷へ帰ることができたのは、互いに協力し助け合ったからだと気がつきました。改めて、十五人の少年はすごいなと思いました。私も十五人の少年のような勇気のある人になりたいです。そのために、この本で得た気づきを大切にして、一步一步努力していきたいと思います。